自衛隊沖縄配備50周年～これからも県民と共に～

【沖縄地連編成完結式】

昭和47年5月15日、当時18名

【創設当初の沖縄地方連絡部】

【臨時第1混成群沖縄到着】

当時の沖縄地方連絡部（鏡原）

募集事務所に張られたビラはがし

募集事務所シャッターへの落書き

自衛官募集への反対デモ

沖縄地本創立50周年

祝賀行事

創立50周年祝賀行事には、島尻安伊子衆議院議員、國場幸之助衆議院議員、宮崎政久衆議院議員、照屋義実沖縄県副知事、古謝景春南城市長を始め多数の市町村長、花城大輔沖縄県議会防衛議員連盟会長を始め多数の県市町村議会防衛議員連盟の皆様、國場幸一沖縄県防衛協会会長を始め各協力団体の皆様、谷嶋正仁航空自衛隊南西航空方面隊司令官を始め在沖陸海空自衛隊部隊長の皆様、遠くは宮古島、石垣島及び与那国島の協力者の皆様、沖縄県内外から約300名の方々のご臨席を賜り盛大に開催した。

坂田裕樹本部長は式辞で50年の想いと将来に向けての想いを発信した。

「自衛隊沖縄地方協力本部は昭和47年５月15日陸上自衛隊那覇駐屯地において、前身である自衛隊沖縄地方連絡部が沖縄県の祖国復帰と同時に創設されて以来、沖縄県内の各防衛協会、沖縄県隊友会、自衛隊父兄会（現在の自衛隊家族会）、沖縄県自衛官募集相談員連合会、沖縄県自衛隊退職者就職援護協力会、自衛隊沖縄地方協力本部後援会などの協力諸団体からの力強い御支援に加え、県民の皆様による温かい励ましとご支援を頂きながら、隊員の募集、就職援護、予備自衛官の管理、広報などの業務を半世紀にわたり行って参りました。

特にこの沖縄県においては、自衛隊、地方連絡部が創設される前に隊友会、父兄会及び自衛隊協力会が設立され、その皆様が復帰前後の部隊の受け入れ、募集、広報活動など、本来地方連絡部が行うべき業務を行っていただきました。陸海空自衛隊、地方連絡部創設後も、自衛隊に対する厳しい声が多い中、親身に自衛隊を支援していただいたという歴史があり、そのため沖縄県の協力団体は、他の都道府県と一線を画した存在であり、深く感謝の意を感じております。

そのようにして、本年、創立50周年という大きな節目を迎えたわけでありますが、ゼロから、或いはマイナスからのスタートであった沖縄県の自衛隊が、現在のように充実した態勢となり、自治体、学校、企業の皆様をはじめ県民の皆様と良好な関係が築けているというのは、地方協力本部、そして沖縄県の自衛隊に所属した諸先輩方、そして現在所属する隊員たちが地道な活動を続け、強い信念をもって幾多の困難を粘り強く乗り越えてきたという歴史があるためです。この歴史を築いてきた一人一人に、心から敬意を表したいと思います。また、これを温かく見守り、ご支援をいただいた県民の皆様にも改めて感謝申し上げます。

沖縄地方協力本部は、この半世紀で9,646名の陸・海・空自衛官を採用し、そして、現在全国の自衛隊で3,000名を超える沖縄県出身者が活躍しています。また、1,600名を超える退職隊員の就職の援助を行い、現在でも自衛隊ＯＢとして、県内各分野でその能力を遺憾なく発揮して活躍しております。このように、私たちは多くの方々の人生や将来に関わる職務を行うことから引き続き、愛情をもって、「地域のため、隊員のため」という信念をもって募集、就職援護などの業務を行ってまいる所存です。

式辞を述べる坂田本部長

加えて、地方協力本部は、自衛隊の中でも地域の皆様と接する機会の多い機関であります。コロナ禍も３年目でありますので、皆様と接する機会を増加させ、皆様の声を聞き、私たちの状況や考えをお話しすることで、関係を取り戻し、さらに強化していければ、と思っております。

我々自衛隊沖縄地方協力本部は、これからも、『沖縄県と自衛隊の架け橋』を合言葉に、『ONE TEAM』となり、『次の半世紀』も邁進していく所存であります」

本祝賀行事においては各種感染症対策のもと開催され、50年間の沖縄地方協力本部、陸海空自衛隊及び各協力団体の状況を映像で振り返るとともに坂田本部長から地本活動報告を行い、祝賀行事を終了した。また、本祝賀行事に先立ち、沖縄地方協力本部の活動に貢献された方々に坂田本部長より感謝状贈呈を行った。

自衛隊沖縄地方協力本部（本部長・坂田裕樹陸将補）は、創立50周年記念事業として、５月13日に沖縄祖国復帰／自衛隊沖縄配備50周年記念切手贈呈式、５月22日に創立50周年記念防衛講演会、５月29日に創立50周年記念祝賀行事を開催した。

各募集事務所長および広報員（令和４年度募集出陣式、本部にて）

不発弾処理３万9,000件
〈第15旅団第101不発弾処理隊〉

第15旅団（旅団長・井土川一友陸将補）第101不発弾処理隊（隊長・佐藤景一２陸佐＝那覇）は、６月１日、糸満市において発見された不発弾（米国製105ミリ砲弾）の回収を行い、昭和47年から続く不発弾処理件数が、３万9,000件に到達した。

今回、処理に参加した第101不発弾処理隊山上２陸尉は、「数字で言えば、処理件数３万9,000件となりますが、それよりも歴代の処理隊の先輩方から続いている「３万9,000件無事故」、という事の方が大切です。これから先も、無事故で処理を実施できるよう確実に訓練を積み重ね、任務に邁進していきます」と述べた。

今後も第15旅団は、沖縄県民の皆様の安心・安全のため日々任務に邁進していく。

６月１日、不発弾処理３万9,000件に到達

昭和47年当時の不発弾処理

昭和49年６月５日特別不発弾処理隊創隊

昭和の不発弾処理

昭和59年12月３日不発弾700ｔ処理
（沖縄県知事より感謝状受賞）

平成５年３月30日
第101不発弾処理隊編成完結式

平成・令和にかけての不発弾処理

「祖国復帰の日」前日祭派遣演奏〈第15音楽隊〉

第15旅団（旅団長・井土川一友陸将補）第15音楽隊（隊長・林田広記２陸尉＝那覇）は、５月14日、帰国して50年。1972年生まれの私は、復帰って、「祖国復帰の日」前日祭派遣演奏を行った。

本イベントは、沖縄県祖国復帰記念大会実行委員会が企画し、音楽演奏、記念講演等を通じて、沖縄県の更なる発展、復帰の意義を次世代に伝えていくことを目的として行われたイベントである。

第15音楽隊の近藤１陸曹は、「本日の『祖国復帰の日』前日祭に参加させていただき、光栄に思います。沖縄が日本に復帰して50年。1972年生まれの私は、復帰っと呼ばれ自分の成長とともに周りの景色が変わっていくのを見てきました。今後ますます発展していく沖縄の次の50年へ向けて少しでも尽力できるよう、精進していきたいです」と述べた。

今後も第15旅団は、沖縄県民の皆様の安心・安全のため日々任務に邁進していく。

「祖国復帰の日」前日祭派遣演奏

記念切手贈呈式

沖縄祖国復帰／自衛隊沖縄配備50周年記念切手は、昭和47年５月15日に沖縄県が日本に復帰すると同時に配備された陸・海・空自衛隊が県民と共に歩んだ半世紀の歴史を記念し、日本郵便、在沖陸海空自衛隊（陸自第15旅団、海自第５航空群、海自沖縄基地隊、空自南西航空方面隊、宮古島駐屯地及び与那国駐屯地）の協力を得て作成したものである。５月13日、航空自衛隊那覇基地において、日本郵政関係者、陸海空自衛隊各部隊長及び各協力団体会長等の参加を頂き、沖縄祖国復帰／自衛隊沖縄配備50周年記念切手贈呈式を実施した。

贈呈式で、在沖自衛隊を代表して南西航空方面隊司令官・谷嶋正仁空将が、「５月15日、沖縄県は祖国復帰50年目の節目を迎えます。この50年を振り返るには、その前に日米双方合わせて20万人余、県民の４人に一人が亡くなられ、焼け野原となった地上戦があったこと、そして27年間の長期に及ぶ米軍統治があったことを、この地域の防衛を担う我々は、しっかりと理解しておく必要があると承知しています。

また、この50年は、我々、陸海空自衛隊が沖縄県に配備され、沖縄の皆様と共に歩んだ半世紀でもあります。配備当時は、先の沖縄戦の経験から厳しい反自衛隊運動もありましたが、不発弾処理、遺骨収集支援、離島患者の緊急輸送、そして災害派遣等の地域への貢献活動、並びに対領空侵犯措置や海上での警戒監視任務等、日本の平和と独立、国民の皆様の安心、安全を守るための各種任務を粛々と実施してきた諸先輩方そして現隊員の努力と、本日お集まりいただきました各協力団体の皆様をはじめとする配備当初からの自衛隊支援者の皆様のご尽力のお陰で、現在は、多くの県民の方にご理解とご支持を頂くことができていると承知しております。

この様な認識の下、本切手シートを拝見させて頂きますと陸海空自衛隊が沖縄配備された当時の歴史的価値のある写真、先ほど触れた不発弾処理や緊急患者空輸等の沖縄県の皆様の日々の安全を守るための活動、そして我が国の領域を守る艦艇や航空機等の装備品や南西地域の防衛体制強化のために新編された部隊の写真まで幅広く取り入れられており、沖縄に配備されている陸海空自衛隊のこれまでの半世紀にわたる活動が県民の皆様に分かり易く伝わる、素晴らしい切手シートであると思います。

本切手シートを通じて県民の皆様に自衛隊に対する理解を深めて頂くとともに日本の安全保障について関心を持っていただけることを期待しています。

我々はこれからも自衛隊の活動に対して沖縄の皆様からご理解とご協力を得られるように真摯に任務完遂に邁進してまいります」と50年の歴史の重みを感じさせる式辞を述べた。

記念講演会

創立50周年記念防衛講演会は、講師に沖縄県隊友会・石嶺邦夫名誉顧問、番匠幸一郎元西部方面総監を招き、２部構成で開催された。また、陸上自衛隊第15音楽隊による記念演奏も行われ、県内協力団体の皆様、一般県民の皆様、陸海空自衛隊の隊員等、約200名の聴衆の参加を頂き心に残る記念講演となった。

第１部では、沖縄県隊友会石嶺邦夫名誉顧問による『おきなわと自衛隊(もう一つの復帰メモリー)』と題して、戦前戦後の幾多の沖縄の世替わり、復帰前の激動期における沖縄隊友会及び協力団体の創設・自衛隊移駐を見据えた広報活動、自衛隊移駐後の様々な反自衛隊事案（隊員の住民登録拒否・ゴミ収集拒否・自衛官募集協力拒否等）の解決に尽力した屋良朝苗初代沖縄県知事、堀江正夫西部方面総監。桑江良逢第１混成団長、又吉康助沖縄地方連絡部長等の先達の苦悩と戦い、祖国復帰50年間の沖縄県民と自衛隊の移り変わり等、50有余年の沖縄県民と自衛隊との「かけ橋」として、石嶺名誉顧問以下諸先輩方の築き上げた歴史について語った。

第２部では、番匠元西部方面総監による『日本を取り巻く戦略環境とこれからの安全保障』と題して、沖縄の祖国復帰から50年・冷戦終結から30年の「国際安全保障環境の変化と日本の戦略的位置づけ」・現在のウクライナ戦争の経緯・現状と今後の見通しについて、我が国を取り巻く戦略環境への問題認識として、中国の動向・朝鮮半島の動向・米国の動向と安全保障戦略について、これからの日本の安全保障では、沖縄（南西諸島）は世界で最も重要な地域であるとして、日本列島の防衛態勢の強化、南西諸島における平素からの部隊配置、機動展開能力の向上、水陸機動団の創設等の重要性、南西地域・尖閣諸島の防衛のため、「県民の皆様のご支援」と「正義のために自分の国を命がけで護る気概」の大切さについて力強く語った。

石嶺邦夫氏

番匠幸一郎氏

在沖自衛隊の主要な沿革

昭和47年５月15日	沖縄地方連絡部編成完結
昭和47年10月４日	桑江初代第１混成群長沖縄到着
10月５日	那覇駐屯地開設
12月６日	緊急患者空輸１回目（粟国村）
昭和48年10月16日	第１混成団編成完結
	沖縄航空隊（那覇）新編
	沖縄基地隊（勝連）新編
	南西航空混成団新編
昭和49年６月19日	不発弾処理１回目（与那原町）
昭和56年７月15日	第５航空群（那覇）新編
昭和60年11月２日	Ｆ－４戦闘機配備
平成２年７月11日	哨戒機Ｐ－３Ｃ配備
平成12年７月19日	九州・沖縄サミット支援
平成18年７月31日	自衛隊沖縄地方協力本部に改編
平成21年１月８日	Ｆ－15戦闘機配備
平成22年３月26日	第１混成団が第15旅団へ改編
平成28年３月28日	与那国駐屯地開設
平成29年７月１日	南西航空方面隊に改編
平成31年３月26日	宮古島駐屯地開設

在沖自衛隊主要実績（令和３年12月31日時点）

不発弾処理（第15旅団）	38,813回実施（平均809回／年）
不発弾処理（沖縄基地隊）	963回実施（平均19回／年）
緊急患者空輸	9,959回実施（平均199回／年）
スクランブル対処	7,552回実施